

自治体によるMICE戦略の先行例

本会議では、今年度の目標として、「(仮称)大田区MICE誘致戦略の策定」を掲げ、大田区が目指すMICEとそれを誘致・実施していくための戦略を10頁程度で取りまとめることとしている。

ここでは、今年度の最終ゴールのイメージを共有するために、他の市区町村が策定したMICE戦略の先行例について、その特徴を整理し、議論のポイントの洗い出しを行う。

1. MICE戦略の策定状況

自治体のMICE戦略やビジョン、計画等¹の策定状況をウェブ検索により確認し整理を行った。ただし、新規MICE施設の整備を前提とし、その施設の有効活用を目的とした「MICE戦略」が散見されるなか、大田区では新規施設整備を前提としていないため、そのような戦略は除外した。

MICE単独で戦略等を策定している市町村は9市である。グローバルMICE都市(12都市、東京都含む)においても5都市(東京都含む)しか策定されておらず、それ以外の5都市のうち政令指定都市2都市で、中核市は高松市と久留米市、一般市は益田市のみであり、規模の小さな市町村でMICEに対する戦略を掲げている事例は非常に少ない。

図表 1 自治体のMICE単独での戦略等策定状況

自治体名	戦略名	策定年
札幌市(★)	札幌 MICE 総合戦略	H27
さいたま市	さいたま市 MICE 誘致戦略	H30
横浜市(★)	中長期 MICE 戦略素案	H25
京都市(★)	京都市 MICE 戦略 2020	H26
大阪市(★)	大阪における MICE 推進方針	H29
益田市	益田市観光振興・MICE 誘致計画	H28
高松市	高松市 MICE 振興戦略	H29
久留米市	久留米市観光・MICE 戦略プラン	H27
熊本市	熊本市 MICE 誘致戦略	H30

注釈) (★) はグローバルMICE都市。

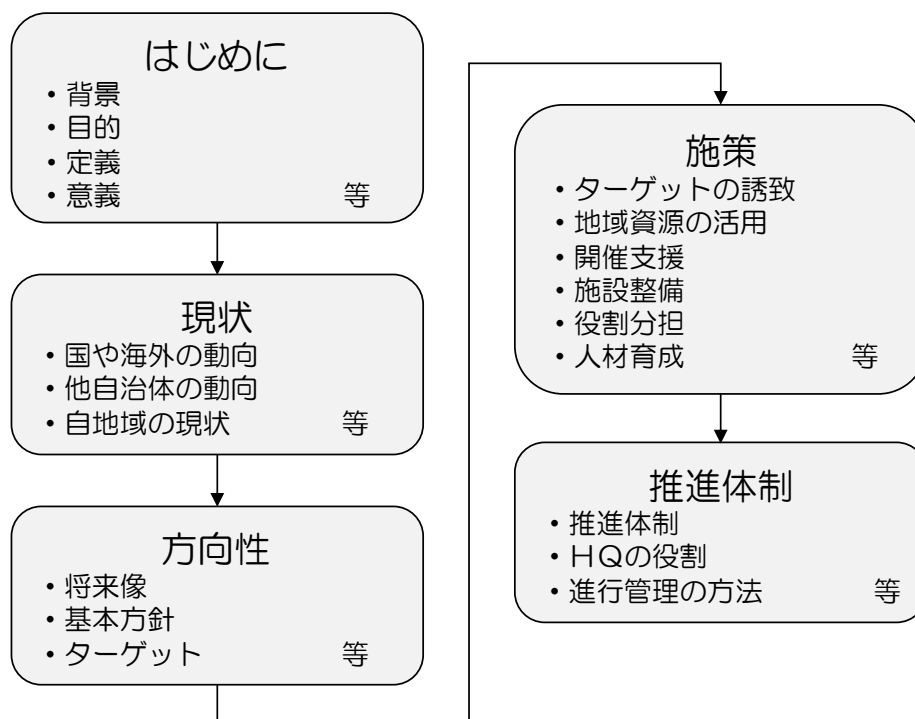
¹ 自治体では戦略を策定せず、コンベンション協会等が毎年度事業計画を策定してMICEに取り組んでいる事例もあるが、今回は自治体自ら戦略等を策定している事例に絞って抽出した。

2. MICE戦略への記載項目

前頁で確認された先行例について記載項目の確認を行ったところ、主な構成は以下の通りであった。

現状として地域内外のMICEにかかる状況を示したうえで、戦略の方向性を導き出し、具体的な施策を記載し、最後に推進体制を示すような構成が一般的であったが、自治体ごとに重点を置くポイントの差異により、記載のない項目や簡略化された項目がみられた。

図表 2 先行例における記載項目



以下、記載項目の中で、本年度議論を進めるうえで押さえておく必要のある項目に絞り、内容を確認する。

(1) 経済波及効果への言及

MICE開催による経済波及効果については7都市で言及があった。うち札幌市、横浜市、大阪市では観光庁「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を用いて経済波及効果の算出が行われていたほか、高松市でも今後の導入可能性について触れられていた。

図表 3 先行例における経済波及効果にかかる記載

自治体名	記載の有無	算出対象	算出方法
札幌市	○	国際会議・インセンティブツアー	観光庁のモデル
さいたま市	○	MICE 2件	不明
横浜市	○	中大型国際会議	観光庁のモデル
京都市	×	—	—
大阪市	○	国際会議・インセンティブツアー	観光庁のモデル
益田市	×	—	—
高松市	△(今後観光庁のモデルの使用を検討)	—	—
久留米市	○	全ての MICE	不明
熊本市	○	全ての MICE	不明

注釈) 掲載されていた経済波及効果は全て年間値。

(2) 地域の特色の活かし方への言及

MICE戦略への地域の特色の活かし方については、7都市において言及されていた。

まず地域資源に関しては、既存のユニークベニューやユニークプログラムを紹介する記述のほか、今後の施策として、久留米市においては市内宿泊や連泊につながるユニークベニューの提案を掲げており、熊本市では熊本城の復旧段階に応じた活用を掲げている点などに特色がみられた。地域産業に関しては、京都市ではMICE開催時の伝統産業製品の活用等、久留米市や熊本市では市内に多く集積する産業に対応したMICEの誘致が掲げられており、いずれもMICEによって自地域の産業振興を目指していることが分かる。

地域イメージやエリア特性の活用という視点では、地域イメージについて京都市や熊本市で関連の記載がみられた。大阪市では市域をさらに細分化し、エリアごとにMICEの方向性を定めていた。

図表 4 先行例における地域の特色の活かし方にかかる記載

自治体名	地域資源の活用	地域産業の活用	地域イメージやエリア特性の活用
札幌市	○ユニークベニュー（モエシ沼公園ガラスのピラミッド、大倉山ジャンプ競技場等） ○ユニークプログラムのチームビルディングメニュー（雪だるま装飾コンテスト等） ○食、イベント、文化等のアフターコンベンション資源が豊富	—	—
さいたま市	○ユニークベニュー（鉄道博物館、埼玉スタジアム2002） ○大宮盆栽に関連したエクスカッションや展示、岩槻の人形に関連した人形制作体験	—	—
京都府	●京都らしい文化プログラム活用の促進や文化体験メニューの紹介	●伝統産業製品活用・購入促進や新産業の技術紹介による伝統産業の振興	●地球温暖化防止京都会議等、歴史に名を残す国際会議の開催実績を生かした支援メニューの充実や誘致活動
大阪市	—	—	●大阪駅周辺エリア、中之島エリア、ベイエリアのそれぞれの特徴やまちづくりの方向性に沿った取組
高松市	●瀬戸内海の島々や景観、史跡高松城跡（玉藻公園）、屋島等の活用	—	—
久留米市	○中心商店街を活用したユニークベニュー・アフターコンベンション ●市内宿泊や連泊につながる提案	●従来からのゴム産業や先端医療産業や近年のバイオ産業の集積に対応し、地域産業への影響が期待できるMICE誘致	—
熊本市	●ユニークベニュー（熊本城、水前寺公園）は九州の主要都市と比較して数が少ないため今後充実化 ●熊本城の復旧・公開の状況等に応じた活用によるMICE誘致	●医療機関や医療系の教育機関に所属するキーパーソンとの連携や協力により医療系の国内会議をターゲットとした取組	●魅力や特性である水資源、農業、防災、海外移住者（日系人）にかかる会議等をターゲットとした取組

注釈) ○：現状認識や既存の取組、●：今後の施策や取組

(3) 他地域との連携

他地域との連携については、以下の通り記載が見られた。

久留米市では、グローバルMICE都市である福岡市との連携について触れており、特に大規模MICE開催時やアフターコンベンションにおいて協力を図っていくと述べられている。

図表 5 先行例における他地域との連携にかかる記載

札幌市	○小樽市及びニセコ町・倶知安町と連携・協力した誘致活動
大阪市	●大阪・神戸・奈良等他都市との連携強化による受け入れ態勢の充実
久留米市	●グローバル MICE 戦略都市である福岡市との連携
熊本市	●九州内や熊本県内他市との連携によるツアーの構築と発信

注釈) ○：現状認識や既存の取組、●：今後の施策や取組

図表 6 久留米市における福岡市との連携にかかる記載

国の「グローバルMICE戦略都市」にも選ばれ、高い集客力を持つ福岡市との連携を深め、相互に補完し合いながらも、本市ならではの素材を活かす差異化を図り、相乗効果を生み出せる取り組みを展開していきます。特に、(公財)福岡観光コンベンションビューローとは情報の共有や連携強化により、福岡市における大規模なMICE開催やアフターコンベンションなどで協力して取り組み、福岡市や久留米市を訪れた人が満足して帰ることができるよう、連携していきます。



MICE見本市への共同出展

(4) 近隣自治体のターゲット設定

ターゲットを設定していくにあたって、近隣のグローバルMICE都市である東京都やさいたま市、千葉県および千葉市、横浜市の戦略における記載や、各種資料における記載を確認した。

東京都では国際的なCを中心に、MやIについても海外企業や海外拠点のある国内企業をメインターゲットとすることになっている。

また、近隣自治体では、さいたま市と千葉県および千葉市ではスポーツ、さいたま市と横浜市では医学系の会議が共通のターゲットとして掲げられていた。その他、さいたま市では東日本連携、理工学系、環境、横浜市ではライフイノベーション、IT、企業インセンティブが挙げられていた。立地特性や保有施設を活かし、経済効果の高いMICEについて戦略的な誘致を目指すほか、産業集積や過去の実績等に基づいて、優位性が高いと考えられる分野に絞ったターゲット設定も行われていることが分かる。

図表 7 近隣自治体等のターゲットにかかる記載

東京都	<ul style="list-style-type: none"> • 大学や研究機関の集積を生かした<u>医歯薬・理工学系の国際会議</u> (C) • 集積する情報通信、金融や、成長産業である健康・医療、環境・エネルギー、危機管理、ロボットなどの産業分野での国際会議 (C) • 「世界一のビジネス都市」の実現に資する<u>金融(再掲)、ライフサイエンス、スマートエネルギーなどの産業分野での国際会議</u> (C) • 東京でのビジネス拡大やネットワーク構築を目指す欧米やアジアを中心とした海外企業(海外拠店等を有する国内企業を含む)の企業系会議 (M) • コストよりも東京の都市としての多様な魅力を重視する海外企業(海外拠点等を有する国内企業も含む)の報奨・研修旅行 (I)
さいたま市	<ul style="list-style-type: none"> • 開設が予定されている(仮称)東日本連携支援センターを活用した東日本連携関連事業 (M, I) • 経済波及効果が高く市内での開催割合の高い医学系の学会・会議や、大学や医療施設、研究所等の立地を生かした<u>医学系・理工学系の会議・大会</u> (C) • 全国的に知名度の高いスポーツイベントの開催実績や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場の指定等のブランド力を活かした<u>スポーツ分野の会議・大会・イベント</u> (C, E) • 「次世代自動車・スマートエネルギー特区」を活用した先駆的な取組や、市内事業者の技術力やネットワーク等を活かした<u>環境分野の会議・大会・展示会</u> (C, E)
千葉県および千葉市	<ul style="list-style-type: none"> • 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関連のキャンプ誘致で培ったノウハウ等を活かし、<u>国際的なスポーツ大会やスポーツをテーマとしたMICE</u> • 国際会議の新規案件開拓のために、ターゲットリストをこれから作成
横浜市	<ul style="list-style-type: none"> • 経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議 (最優先) • <u>バイオ等のライフイノベーション、IT関連、企業インセンティブ</u>

注釈) 東京都については、東京都「東京都 MICE 誘致戦略 (平成 27 年)」、千葉県および千葉市については、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー「平成 31 年度事業計画」を確認。

(5) 成果指標の設定状況

先行例における成果指標の設定状況を確認したところ、9都市全てで関連する記載がみられた。複数の自治体で共通しているものとしては、JNTO「国際会議統計」における国際会議開催件数や、観光庁のモデルを活用し算出される経済波及効果額のほか、特定の会場におけるMICE開催件数、ターゲットとしているMICEの開催件数や開催支援件数などがあった。

図表 8 先行例における成果指標の設定状況

札幌市	国際会議（JNTO 基準の暦年）の開催件数
	コンベンションセンターにおける全国規模の国内会議・大会の開催件数
	海外インセンティブツアーの誘致・支援件数
	新たに誘致する大規模なスポーツ全国大会や国際大会の件数
さいたま市	（仮称）東日本連携支援センターでの商談、打合せ件数
	関東ブロック以上のコンベンション開催件数
	2020年度までに新たな展示会・見本市・スポーツ大会を誘致
横浜市	中大型国際会議の開催件数
京都市	開催件数、参加者数、平均宿泊日数、経済効果や雇用創出効果等を指標とし、今後数値目標を設定
大阪市	都市別国際会議開催ランキングの順位
	大阪府域の国際会議開催件数
	国際会議、インセンティブツアーの経済波及効果
益田市	MICE 開催支援件数
高松市	コンベンション開催件数
	国際会議開催件数
久留米市	MICE 開催支援件数
	MICE 宿泊数
	MICE 参加者数
熊本市	経済波及効果額
	熊本城ホールで開催されるイベントに対する満足度